

平成 28 年度第 1 回奈良県環境審議会 環境影響評価審査部会
議題 2 会議録

1. 開催日時 : 平成 28 年 5 月 13 日 (金) 15:00~16:30
2. 開催場所 : 奈良商工会議所 中ホール
3. 出席者 :
 - 環境影響評価審査部会委員 : 6 名
藤井部会長、坂井委員、高田委員、成瀬委員、前迫委員、山田委員
 - 事務局他 : 9 名
(奈良県くらし創造部景観・環境局 環境政策課、廃棄物対策課)
 - 事業者等 : 7 名
4. 傍聴者等 : 0 名
5. 議題 : 重販最終処分場拡張事業に係る環境影響評価方法書に対する意見について
6. 配付資料 :
 - 資料 7 環境影響評価準備書の送付について
 - 資料 8 環境影響評価準備書に対する意見について (諮問)
 - 資料 9 環境影響評価準備書説明会の実施状況の報告
 - 資料 10 重販最終処分場拡張事業に係る環境影響評価準備書※
 - 資料 11 重販最終処分場拡張事業概要・調査方法説明資料
 - 資料 12 審査部会における意見概要、事業者の見解・別添資料※資料 10 の準備書は部会委員にのみ配布
7. 議事概要 : 事業者より、準備概要の説明、関係課・委員からの事前意見に対する見解について説明がなされた後、審議が行われた。主な質疑については以下のとおり。

○質疑概要

藤井部会長：ただ今、事業者のほうから回答がありました内容につきまして、また本日お気づきのことがありましたら、ご意見をお願いいたします。また、この案件について時間が限られておりますので、ご協力をお願いいたします。何かご意見ございますでしょうか。

前迫委員：事前に質問しなくて、今申し上げるのは申し訳ないのですが、この報告書を見るとナルトサワギクとかシナダレスズメガヤという外来種が入っていて、その点を反省して次回は在来種でというようなことを書かれています。そういうものが入った経緯に播種や吹き付けをされたということがあるのかどうかをお聞きしたい。もう一つは、緑化の中で、播種でススキとかイタドリを撒くと絶対にススキが一人勝ちしてしまうので、ある程度どういう群落にしたいかを想定して、例えばチガヤ群落を目指して草地に再生していくとか、書いて頂かないと、何か分からないけど幾つか種類を混ぜて吹き付けて草原にしますとか言われてもイメージが持てないので、そのあたりどういう風にお考えかお聞きしたい。もう一つは落葉広葉樹に戻すときにも、コジイとかアラカシとか挙げておられますが、一緒に植えると絶対常緑のほうが勝ってしまいますので、落葉広葉樹の森にはならないですね。植生調査票のコナラ群落を拝見すると非常に貧相なデータしかないのですが、本当はどうかかというところがわからないのですが、このリストの中にはコバノミツバとかヤマツツジとかモチツツジとか、いわゆる二次林に出そうなものもあります。これらはかなり広域的に生育していると思います。しかし、落葉広葉樹に戻すと緑化をうたわれているときにも、どういう森にするのか、ある程度、何十年か先ではありますが、もう少し丁寧に書いて頂かないと、外来種が今繁茂していて、シナダレスズメガヤが生育しているという現状を踏まえておられる割には、そちら（方法書）の方に反映されていないように思います。どういう経緯で現在の外来種が入り込んだのかということと、緑化に関してもう少し明確なコンセプトを打ち出して頂けるのかどうかというあたりをお聞かせ下さい。

事業者：外来種の今現在生育している状況につきましては、造成された場所で自然に侵入しているという状況が見てとれます。また、ナルトサワギクなどについても、周辺にも生育しているものが、侵入しているというような状況が見てとれます。シナダレスズメガヤのところは過去の埋め立て地として、特に緑化というのを行ったという経緯は聞いておりません。ただ、どうしても法面のところで若干の客土の中に混入していたもの、もしくは、周辺の緑化地か

ら風散布などで入ってきたようなものが、現在生育しているというような状況だととらえております。落葉広葉樹林とかスギ植林などは比較的事業地の周辺に存在しております、確かに落葉広葉樹のコバノミツバツツジといったような樹種もありますので、そういった落葉広葉樹林をある程度想定した緑化を計画していきたいという内容で考えております。常緑広葉樹と比較すると確かに落葉広葉樹が負けてしまいますので、その辺は樹種の選定について、ご意見を参考にしたいと思っております。

前迫委員：ありがとうございます。そのような外来種のナルトサワギクが勝手に入ってくることはないと思いますが、今後はそういうことに留意して頂ければと思います。あと一点、生態系のところでイタチ属が入っていますが、イタチ属の中にはチョウセンイタチなどの外来種もいます。日本の中のこの辺でイタチ属の在来種と言ったらニホンイタチぐらいしかない。あとは大体北海道とかの違うエリアなので、ここにイタチ属と書くのであれば、例えば括弧在来種とか括弧書きで書かれた方が、誤解がないのではないかと思います。

事業者：はい、ありがとうございます。

藤井部会長：他にご意見ございますでしょうか。では私のほうから、大気質とか粉じんの対策として強風時の作業中断というのがありますが、実際に作業を中断する強風の基準というのは、今現時点でどうされているのか、それとも予測で風速何メートル以上の時にはある程度の作業を中断するというようなことはあるのでしょうか。

事業者：実際の工事に関しては、レッカー作業とか吊り作業に関して、測定データで作業中止という基準がありますが、粉じんに関しては明確な基準は工事上はございません。様子を見て、風向き強さ等を見て判断するというのが実情になっております。

藤井部会長：わかりました。特に予測で何メートル以上で作業を中止するということはされていないということですか。

事業者：はい。

藤井部会長：わかりました。他に何かございますでしょうか。

前迫委員 : カヤネズミとかクチキコオロギの移植と書いてありますが、動物を移植と言っても難しいのではないかと思うのですが、その辺はどこかで成功事例があって、たぶん上手くいくだろうみたいなのところがあって言われているのか、とにかく潰すに当たっては移植と考えておられるのでしょうか。勝算があって書いておられるのかお尋ねしたい。

事業者 : 移植については難しいというのは承知しております。改変する直前に巣が見つかった場合はそのまま放置するというより、事業地外もしくは事業地の中のススキ草地に持って行き、保護するというような観点で考えております。事例については確かにカヤネズミの移植というのはあまりありません。ただ、今申し上げたような形で、あったものをそのまま潰すのではなく、保護してあげようという観点です。クチキコオロギについても同じです。敷地の中の確認された場所というのがありますので、その部分にある朽ち木を場外のほうに持っていくことによって、卵とかそういったものが消失してしまわないようにというような対応を考えています。

前迫委員 : 分かりました。そういう配慮事項で保全するクチキコオロギの朽ち木をどこかに持っていくというのと、カヤネズミが作っているススキの茅原を持っていくっていう移植をいっしょに記載するのはあまりにも乱暴なので、もう少し丁寧に保全措置を講じるということをそれぞれに書いて頂くということで、よろしく願いいたします。

事業者 : 承知しました。

藤井部会長 : 他にになにかございますでしょうか。

成瀬委員 : 東側の住宅のところに環境保全のための遮音壁を設けると書いてありますが、これはどういう遮音壁なのですか。騒音状況が終わったら撤去されるようなものなのですか。ちょっとよくイメージがわきませんので、教えて下さい。

事業者 : 遮音壁を設けると想定している個所は、事前に地元の皆様に工事内容を説明してありました際に、できるだけ目前を遮蔽しないようにネットフェンス設置の要望がありました。しかし、この個所は掘削残土の仮置き場に近いため音やホコリで御迷惑をかけることとなりますので、遮音・防塵を兼ねた鋼板塀を設置する必要があると考えています。ただし、その設置期間は掘削した土を仮置きするまでの間でよく、その後の長い埋立期間は地元の要望に沿っ

てネットフェンスを設置して、現在の境界部と同じ状態に持っていきたいと考えております。

成瀬委員：終わったら撤去されるのですか。

事業者：そう考えています。今、住宅の直前で地元の要望が強いところだということを念頭に置いて、今の時点ではそのような基本的な考え方でおります。

成瀬委員：高さだけではなくて、幅もあるんですね。イメージがわきにくいものですから、質問しました。

藤井部会長：他に何かございますか。最後にお聞きしたいのですが、準備書の水質調査結果の中で、春だけ pH が基準値を超えていたというのがありますが、溶存酸素濃度も高いので、現況の河川のところで、上流側で藻類が発生しているなど、何かありますか。特にそういうことは見られないけれども、pH だけ基準を超えていたということですか。準備書 p.226 で、曾我川 No.1 で pH が 8.5 の基準を超えています。全体的に曾我川 No.1 は高いですが、調査したときの状況が、川の水量が少ないときに測ったとか、藻類が発生するような時間帯があって、そういう時間帯に測ってしまったとか、なにか極端に高くなる原因はあったのでしょうか。放流水は基準を満たしていて全然問題はないですが、現況の調査ではどうだったのかを教えてくださいました。

事業者：p.226 の pH の春の No.1 の青いラインが上がっているということですか。調査時の状況という意味合いですね。

藤井部会長：はい。今分からなければ、また後ほどでも構いません。

事業者：調査時のデータ等をまた確認させて頂きたいと思います。

藤井部会長：はい、ありがとうございます。他に何かございますか。ある程度ご意見頂いたと思いますけども、時間になりましたので、また後ほど、お気づきの点がありましたら事務局を通じてご意見頂いて、またそのやりとりをしながら第 2 回の部会のほうで審議させていただきたいので、よろしく願いいたします。それでは、進行のほうを事務局のほうへ返させていただきます。